

輸出事業計画

※申請者名（株）マルハニチロAQUA玄海事業所、品目：ブリ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

○**韓国**：現状、ブリは韓国においては、自国で天然魚を採捕後、畜養して国内向けに出荷・販売されている。春・夏のシーズンにおいても、潜在的な需要は高いと想定され、日本産の高品質なブリを安定的に供給できる仕組みが整えば、更なる需要の取り込みも可能であると考えられる。

○**中国**：活魚での輸送を行うインフラが整っていないため、生鮮での出荷がメインであり、市場規模が巨大な中国国内の需要を満たせていない。味や品質の評価が高い日本産水産物の需要は非常に高く推移しており、富裕層も多いため、高価格帯であっても引き合いは強い状況にある。

○**香港**：生鮮での出荷がメインで、主にラウンドにて出荷・販売されている。味や品質の評価が高い日本産水産物の需要は非常に高く、競合他社も多いためコスト競争力は求められるものの、富裕層も多いため安定的な需要がある。

【課題】

○**全体**：生産量確保の為に、採捕不安定な天然種苗への依存度を軽減する必要がある。

○**韓国**：ブリは一般的に春から夏にかけては産卵期で身質があまり良くないイメージがあり、需要が落ちる一因と考えられる。養殖魚におけるエトキシキン含有量の規制があるため、エトキシキンを含む餌飼料を使用する必要がある。

○**中国**：日本産ブリの需要は非常にあるものの、品質を維持しながら日本から中国へ大量に輸送する手段を確立できていない。

○**香港**：春の時期に身質が弱くなるため、現地でラウンドからフィレへ加工時に身が崩れやすい。親会社を通じて生鮮ラウンドにて空輸で輸出しているが、航空運賃が高騰しており配送費が割高になっている。

2. 輸出事業計画の取組内容

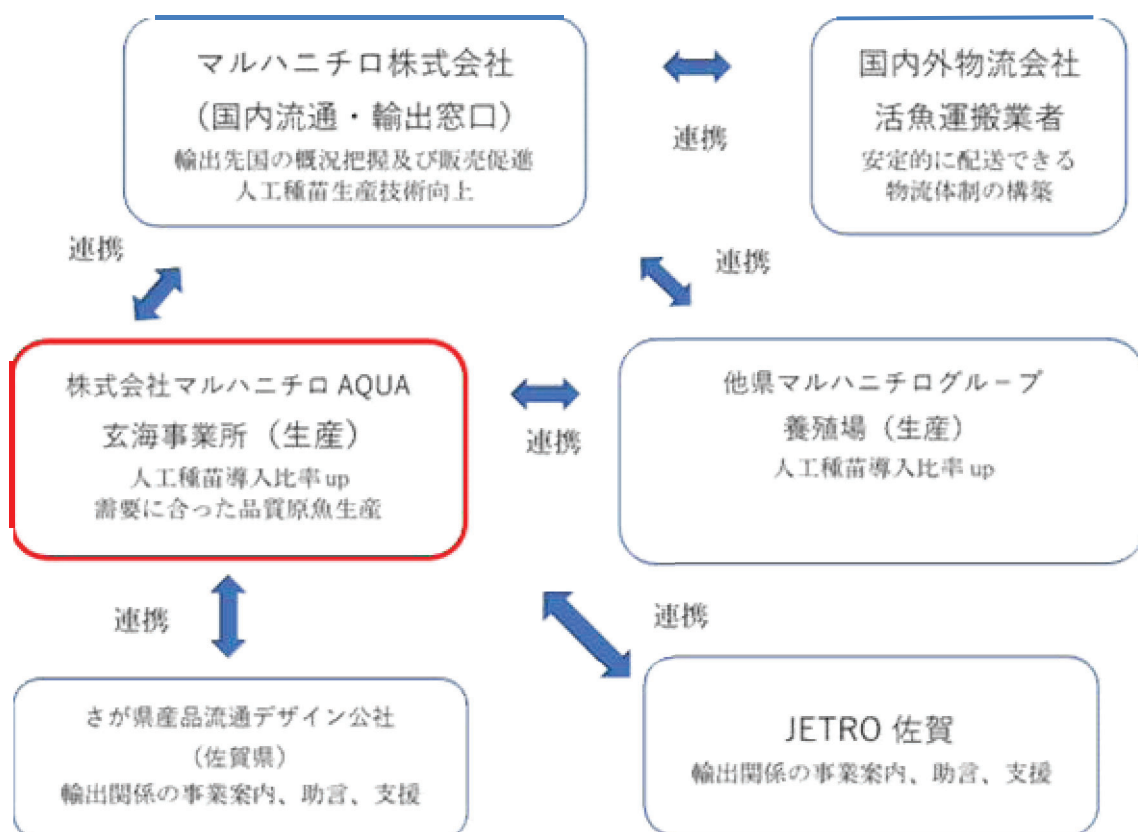
○**全体**：マルハニチロと連携を図り、人工種苗導入比率を上げる。ワクチン接種に関しては、ワクチンメーカーと連携しながら、ワクチン自動接種機等の導入を進め、省力化を進める。

○**韓国**：春や夏においても、人工孵化や天然でサイズの小さい原魚を使用して産卵の負担を軽減することにより、品質を維持した日本産ブリの供給を行う。低エトキシキン及びエトキシキンフリー飼料を使用した飼育方法を確立し、規制をクリアしたブリを生産する。韓国国内にて流通している原魚との品質の違いを販売促進してアピールすることにより、新たな需要を獲得する。

○**中国**：活魚であれば水温を考慮しながら活魚運搬業者と取り組み、生鮮品であれば航空会社との定期航路を運航する等取組を行うことによって、ある程度の輸送量を安定的に配送できる仕組み作りを行う

○**香港**：ブリの人工種苗を使用して、春の時期に出荷する原魚における産卵の影響を軽減し、身質の維持を図る。航空会社との取組みで、航空運賃が抑えられる新規・既存航路を模索する等して、ある程度の輸出量を安定的に配送できる仕組みを作る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

※輸出先国：韓国、中国、香港

